



不倫の恋のせつなさとしあわせ。

中原さやか

ふたりの時間

しあわせな時間。

あなたに抱かれて眠る時間。

あなたの腕の中で目覚める瞬間。

このしあわせな時間が、もっともっと続くといい。

このしあわせな時間が、ずっとずっと続けばいいのに。

おやすみなさい.....

とおるさん、好きよ。大好き。愛してる。

ねえ、とおるさん。

いっぱいキスして。

いっぱい愛して。

とおるさん.....。

.....。

.....とおるさん？

.....あ、あれ？ とおるさん？

やだあ.....もしかして寝ちゃったの？

.....ずっと忙しかったみたいだもんね。疲れてるんだね。

あたしの部屋にいるときは、ゆっくりしてね。

だけど.....ねえ、とおるさん。

明日、目が覚めたら、今日分までいっぱい愛してね。

あたしの方が先に起きたら、いたずらして起こしちゃうんだから。

おやすみなさい、とおるさん。

「おやすみなさい……」後日談。

とおるさんは、すまなそうに「起こしていいのに」と言うけれど。

うん、正直に言うよね。

「あたしをその気にさせといて寝ちゃうなんて！」

と、思わなかったわけじゃありません（笑）

でもね。

だって。

起こしちゃおうかなーと思っても。

とおるさんの寝顔を見ちゃったら。

あんな無防備な、とおるさんの寝顔を見ちゃったら。

怒ってたことなんて忘れちゃうよ。

土曜日の朝。その1

あなたと迎える土曜日の朝。

とおるさん「さやかちゃんを抱いて寝るとすごく落ち着く」

さやか「とおるさんの腕の中ってとっても安心する」

そんなふたりだから、あたしたちは、なかなか起きられない。

いつまでもベッドの中で、ぬくぬく、うとうと、いちゃいちゃ。

起きたくないね、と言いながら。

いつまでもこうしていたいね、と言いながら。

土曜日の朝。その2

あなたと迎える土曜日の朝。

あたしたちは、なかなか起きられない。

いつまでもベッドの中で、ぬくぬく、うとうと、いちゃいちゃ。

それでも。

いつか、とおるさんが言う。

「そろそろ起きようか……」

でも。ねえ、とおるさん。

起きる時間を決めるのは、あたしじゃないよ。

帰る時間を決めるのは、あたしじゃない。

しあわせなため息。

夜。

深く深く、愛しあった後で。
あたしたちはいつも、抱き合って眠る。

あなたがあたしを抱き寄せる。
あたしはあなたに包まれる。

あたしはあなたにしがみついて、脚をからませる。

背中に回されたあなたの腕の力強さに、
触れる肌のあたたかさに、
あたしは安心する。

安心して、あたしは深いため息をつく。

「ああ……」

すると。

「ああ……」

あなたも深いため息。

それが本当に同じタイミングだったので。
あたしたちは笑ってしまう。

しあわせな時間。
しあわせなため息。

ふたりで、しあわせな夢を見ましょう……。

あなたの好きな歌

歌うことが好きなあなた。

あなたが好きだという歌を歌うのは好き。……いつもは。

だけど。

叶わない夢しか見ることのできない今のあたしには、この歌はとても残酷に刺さる。

「ずっと 心に描く 未来予想図は ほら 思った通りに 叶えられてく」

Dreams Come True 「未来予想図Ⅱ」より

あなたの好きな歌を歌う

あなたと二人でカラオケ。

あなたはあたしの好きな歌を歌ってくれる。

あたしはあなたの好きな歌を歌う。

あなたが好きだと言った、「未来予想図II」を初めて歌う。

不安だった。

せつなくなつて泣き出してしまったらどうしよう。

.....でも。

あまり音感のよくないあたし（汗）

そんな心配は全然なかった。

音を追いかけるのに一生懸命で、歌詞を味わう余裕なんてなかった。

ちょっと歌詞を間違えたり、音はずしたりしたけれど、あなたはとても喜んでくれた。

よかった。

でも、やっぱり不安。

慣れてきて、歌詞を考えて歌う余裕ができたら。

.....あなたの前で泣いてしまったらどうしよう。

電車の中で

電車の中で、あなたと並んで座る。

体の脇に置いた腕が、指先が、あなたの腕に、指先に触れる。

急にあなたの手が動いて、あたしの手をたぐり寄せてぎゅっと握ってくれる。

それだけのことで、心があったかくなる。

あなたがいる夜。

あなたがいる夜。

あなたに抱かれない夜もある。

けれど、あなたに抱きしめられずに眠る夜はない。

あなたに包まれて眠れるだけで、あたしは誰よりも幸せになれる。

あなたに会える日。

ドアが開く。

あなたが入ってくる。

出迎えたあたしを、あなたは抱きしめる。

靴も脱がず、荷物も置かず。

そして、キス。

言葉よりも想いを伝えてくれる、熱く激しいキス。

やさしいこたえ

体を重ねて
肌を合わせて
あなたとつながっていることを感じながら

この幸せがいつまでも続いてほしくて
「どこにも行かないで」
「ずっとそばにいて」
言ってしまうことがある

あたしを抱く腕に力を込めて、あなたはそれに応えてくれる。
けれど、あなたは何も言わない。言葉はくれない。

応えてはくれるけれど、答えはくれない。

それが

あなたの優しさ
誠実さ

そんなあなただから
とても 好き

嘘を言わないから

だから
あなたを信じられる

溶ける

あなたの触れたところから蕩けてゆく

このまますべて溶けて あなたとひとつに溶け合ってしまいたい

あなたとの間を隔てるのなら 形なんて いらない

あなたへの手紙

ねえ、知ってる？

ねえ、とおるさん、知ってる？

とおるさんがあたしに微笑みかけてくれるだけで。
とおるさんがあたしをぎゅーって抱きしめてくれるだけで。
とおるさんがあたしの髪をなでてくれるだけで。
とおるさんがあたしに優しくキスしてくれるだけで。

あたしがどんなにうれしいか。
あたしがどんなに安心するか。
あたしがどんなに幸せになれるか。

とおるさん、知ってる？

あたしを幸せにするのなんて、すごい簡単なんだから。

ベッド

とおるさん。

とおるさんがいないと、あたしのベッドは、シングルベッドなのにととてもとても広いです。

今度はいつ、あなたと一緒に眠れますか……？

望み。

「二十四時間あたしのことを想って」なんて望まない。

家族といるときは、あたしのことなんて考えないで。

あたしのことを想うときは、家族のことを忘れて。

心のいちばん深い場所。

ねえ、とおるさん。

あなたの心の中で、あたしはどれだけの場所を占めているのかな。

どれだけ広い場所をあたしが埋め尽くしていても、きっとあなたのいちばん深い場所には、あたしは入っていけないのでしょうね.....。

さみしい

あたしが「さみしい」って冗談めかして言ったときは、すごく寂しいときなんだ。
あたしが「泣きそうなくらいさみしい」って言ったときは、ほんとに泣いてるんだ。

知らないだろうけど。……言えないけど。

今日は会えてうれしかったです。

とおるさんへ。

今日はありがとう。

久しぶりにとおるさんと寄り道できたね。

とおるさんの買い物にくっついて歩いただけだったけど、なんだかとっても楽しかった。

仕事が終わってからだったし、しかも残業してからだったから、CDショップでとおるさんが前から欲しがっていたアルバムを買っただけで、そのあとお茶する時間もなくなっちゃって。

「ゆっくりできないのに呼び出してごめんね」

なんて、とおるさんは謝ってくれたけど。

ゆっくりできなくても。

ちょっとの時間でも。

それでも会いたいと思ってくれた、そのことが、あたしにはとてもうれしいことなんだよ。

元気になって。

あなたの痛み。

あなたのストレス。

あなたの疲れ。

あたしが、それを癒してあげることは、できるのかな.....。

わかってるよ。

うん、わかってるよ。

出張だもん、仕事だもん、会えないのはしょうがないよね。ちゃんとわかってるよ。

だけどね。それでも寂しくなっちゃうのは止められないの。ごめんね。

会えないことを、しょうがないことをくよくよしても仕方ないから。

気持ちを切り替えて、次を楽しみにしようよ。

次に会えたらどんな風に楽しく過ごそうかって思ってたよ。

あなたにそう言われたら、うん、と言うしかなくて。

でも、ごめんね。

そうやって気持ちを切り替えようとしても、今度は、

いつまでも「次」があること。

いつになるかわからない「次」をずっと待ち続けていること。

が、悲しくなってきたら.....。

うん、わかってるよ。

仕方のないこと。

ちゃんと、わかってるよ.....。

話がしたいのに

ねえ。

どうすればあなたとちゃんと話ができるの？

メッセージは中途半端だからいや。それはあたしも同じだよ。

会ったときに話そうよ、って言っている間も、会っている間はうれしくて舞い上がっちゃって忘れちゃう。それはあたしも同じ。

じゃあ、と思ってメールを送ってみれば、直接会ったときに話した方がよさそう。うん、言葉だけの一方通行じゃ、誤解することもあるかもしれないからね。あたしもその方がいいと思うよ。

ねえ。

いつになったら、あたしはあなたから答えをもらえるの？

あなたの腕の中

ねえ、とおるさん。

あたしたち、いつも抱き合って眠るよね。
あなたに抱かれるとね、とっても安心するんだ。

ねえ、どうしてこんなにぴったり重なるんだろう。
あたしの体は、あなたに抱きしめてもらうために、このかたちになったんじゃないかと思えるくらいに。

だからね。とおるさん。

早く会いに来てね。
あなたの腕の中で眠りたいよ。

一人でベッドに入って寝付くまでの時間が、いちばん寂しいかもしれない.....。

ぎゅーって、して。

ねえねえ。

ぎゅーって、して。

そしたらきっと、かなしいきもちや、さみしいきもちなんて、どっかにいっちゃんとおもうんだ。

だから。ね。

ぎゅーって、して。

あなたのせいです。

とおるさん。

どうしてくれるのですか。

今日もまた、会社に遅刻してしまったではありませんか。

とおるさんのせいです。

とおるさんと一緒にいる時間は楽しすぎるからいけないのです。
ついつい夜更かしをしてしまうではないですか。

とおるさんの腕の中は気持ちよすぎるからいけないのです。
起きられないではありませんか。

どうしてくれるのですか、とおるさん。

.....

わかっています、とおるさん。

きっとあなたはこの手紙を見ながらにこにこしているのでしょうか？

あたしが本当はちっとも困っていないことを知っているのですから。

そうです、本当は、遅刻なんかしていません。

うちの会社、フレックス制度がありますから。ちゃんと十時までに会社に着いたのだから、遅刻なんてしていないのです。

ただちょっと、とおるさんを困らせてみたかっただけなのです。

だって、あたしは本当に困っているのです。

あなたに抱かれて眠ることが、気持ちよすぎて。困っているのです。

ねえ、とおるさん。

どうしてくれるのですか。

無題

優先順位を間違えないで。

今度会えるのはいつですか

とおるさん。

あなたに今度会えるのはいつですか。

とおるさんが予定を教えてくれないことの「いらいら」や「やきもき」は、好きな人の行動をすべて知ってなきゃ気が済まない、なんてストーカー的な気持ちじゃなくて。

とおるさんがいじわるで予定を教えない、だとか、わざと予定を隠してる、だとか、そういう風に思ってるわけでもないのだけど。

突然「今日、いい？」っていうのはやめてほしい、っていうお願いを、まさか忘れてしまったわけじゃないのだろうけど。

ただ、.....知らないだけなんだよね。

毎日毎日、あたしがどれだけときどきしながらとおるさんからのメールを待っているか。それを、知らないだけだよね。

だからとても軽い気持ちで、ときどき「今日、いい？」なんて言ってしまうし、あたしが聞くまで予定を言わなかったりしてしまうんだよね。

わかってる。

気にしすぎるあたしの方が、こだわりすぎるあたしの方が、まちがっているのでしょうか？

そんなに気になるなら普通に聞いてくれればいいのに、っていう、とおるさんの言い分も、わからなくはないけれど。

でも、じゃあ、毎回聞くの？ いつまでたってもとおるさんからは言ってくれないの？ あたしが知りたがってるってことを、あなたは気遣ってはくれないの？

あのね。

たぶんね、もしも、ふたりが同じ立場なら。どちらもシングルだったなら。

あたし、こんなに神経質にはならないと思うの。

だって、それならあたしはもっとわがままが言える。とおるさんからの連絡を待つだけじゃなくて、あたしの方から、いつ会いたいかを言ったりできるのに。

それができないから、待つことしかできないから、待ってる間がつらいんだ。
そのことを、どうすればあなたに伝えることができるだろう。

いつ会えるかなって、そのときのことを楽しみに待っててよ、ってとおるさんは言うけれど。
そう思えたらいいと、あたしも思うけれど。
待ってる「だけ」しかできないのがつらいついてこと、きっと、とおるさんにはわかってもらえないんだね……。

あたしは、

あたしは前に進んでいる？ 後ろ向きじゃない？ ずっと同じ場所にいるんじゃない？

ねえ、とおるさん。

そろそろ、あたし、ちゃんと考えなきゃいけないんじゃないかな。

どうしたいのか。どうなりたいのか。

今のままでは、いつか迎えるさよならの日に、あなたと過ごした日々を後悔してしまいそうなんです。

そのことに、気付かない振りをしてきたけれど。

ねえ、とおるさん。

大好きだよ。

ずっとずっと一緒にいたいよ。

だけどね。

だけど.....

気持ちの切り替え方。

とおるさん。

初めの頃は、毎日顔を合わせていたね。

同じ会社、同じフロア、同じ部署。

直属の上司ではなかったけれど、とおるさんは最初から、あたしにとってあこがれの先輩社員だった。

職場の先輩と後輩、という関係から一步踏み出して(踏み外して?)一年くらいで、異動や組織変更で、とおるさんとは会社で顔を合わせることはなくなってしまって。

あのね、そのときはね、きちんと気持ちの切り替えができたんだ。

もっと寂しくなっちゃうんじゃないかと思ってたんだけど、会社でとおるさんの顔を見られないことは、想像してたよりもつらくなかった。

.....だけどね。

家に帰っていくあなたを見送った土曜の午後は、だめなの。

うまく気持ちを切り替えられない。

ねえ、とおるさん。

どうすればいいのかな。

ひとりの時間を楽しむ、大人の女になりたいのに。

とおるさんだって、あたしに、そうあってほしいと思うでしょう？

ごめんね、とおるさん。

さみしいよ.....。

いつか、とおるさんに送ったメール。

とおるさん。

会いたいな。

抱きしめてほしいな。

とおるさんに包まれていたいな.....。

おやすみなさい。

とおるさんの夢を見たいな.....。



ずーっと前、とおるさんに送ったメールです。

覚えていますか？

あれからずいぶん時間が経ちましたね。

今は、メールのやりとりはほとんど無くなって、インスタントメッセージで話すようになったけれど。

でも、今もあたしは同じことを言ってるね。

とおるさん。

あの頃よりもずっとずっと、とおるさんのことが大好きです。

今日もあなたのことを思いながら眠ります。

おやすみなさい。

夢でおとるさんに会えますように.....。

お願い

ずっとそばにいるよ

なんて

ぜったいに いわないでね

あたし

うそつきは きらいです

とおるさんは、結婚するまでの間に何人の女性と付き合いましたか？
さやかちゃんの前の彼氏はどんな男だったの？

今まで、お互いにそんな話はしたことないね。

今、こうやって一緒にいられること。
隣で眠れること。

それだけで充分だから。

ふたりでいられるこの瞬間が大事だから。
だから、それ以外の過去も、未来もいない。

さみしい さみしい さみしい

待つしかない、こちらからはアクセスすることのできないことの、どうしようもないもどかしさやさみしさを、あなたには想像することはできないでしょうね。あたしがこんなにさみしいと思っているなんて考えたこともないでしょう？

逢いたいです。

とおるさん。

あのね。

とってもとっても、逢いたいです.....。

おかしいね。

ゆうべ、あなたに抱かれて眠ったのにね。

今朝、あなたの腕の中で目覚めたのにね。

一人になった瞬間から、もう、またあなたに逢いたくなってしまう.....。

正直な気持ち。

また、しばらく出張になり、会えない日が続く。

ねえ。

そんなときは。

一度だけ、「寂しい」と言うのを許してくれますか。

それが正直な気持ちだから。

最後にはちゃんと、「次に会える日を楽しみに待ってるね！」って、笑って言うから。

どちらもほんとの気持ちだから。

待つ女。

「もしかしたら、明日、行けるかも」

「仕事が忙しくて、時間は遅くなっちゃうけど……」

「明日、はっきりしたら連絡するから」

昨夜のインスタントメッセージでの、あなたの言葉。

だから、今日は、待ってたよ。ずっと。おとなしく。定時を過ぎても。

あたしも忙しかったから、どうせ定時に帰れないのはわかっていたし。

でもね、ご飯食べに行こうって誘われちゃったんです、同期の女の子に。

だから。あなたの、会社の携帯に、部下の振りをしてメールを送っちゃった。

件名「中原です」

本文「お疲れさまです。本日夕方の予定は決まりましたでしょうか？」

きっと、迷惑かけたね。ごめんなさい。

でも。だって。忙しかったのはわかっているけれど。

そうでなくてもあたしに連絡を入れるのは大変だってことは、わかっているつもりだけれど。

でも、ねえ、今日みたいなことだってあるんだよ。

いつまで待ってればいいの？

九時とか十時とかに仕事が終わって、そのときはじめて「これから行きます」って言うの？

あたしの送ったメールにすぐ返事をくれたってことは、時間はわからないにしても、会える調整ができていたということでしょう？

せめて「行ける」「行けない」だけはもっと早く教えてよ、っていうのは、わがままですか？

待つだけの女には、なりたくないんです。なれません。

家族の話題。

とおるさん。

あのね。

とおるさんの家族の話聞くのは、いやじゃないよ。

お子さんたちの楽しい話を聞けるのは、うれしいよ。

でもね。

家庭の愚痴は、言わないで。

できればそれは、ほかの場所で吐き出して。

あなたの守っているものがあたたかく輝いていると、信じさせて。

あたたかい幸せがあるから今のやさしいあなたがいるのだと、思わせて。

あたしはあなたの安らげる場所でありたいけれど。

家庭からの逃げ場所にはなりたくないのです。

三十一文字

逢いたいよ

あなたと ゆっくり過ごしたい

そう思うことさえ わがままでしょうか

夏祭り

とおるさんへ。

いよいよ梅雨も明けて暑いですね。

夏バテなんてしていませんか？

仕事も忙しそうだし、体調を崩していないか心配です。

ところで。

あたしの住む街は今日、夏祭りでした。

昼間は通りを御輿が練り歩き、夜は広場で盆踊り大会。

そのどちらも、あたしは参加したわけではないけれど。

御輿はベランダから眺めて、盆踊りは買い物帰りに遠回りして会場の横を通っただけ。

それでも、やっぱりなんだか気分がうきうきします。

この街にずっと住み続けるつもりはないけれど、再開発が進む中でもちゃんと下町の風情を残しているこの街を、あたしは少し好きになってきています。

とおるさんの住む街には、夏祭りはありますか？

家族で出かけていったりするのでしょうか？

お子さんと一緒に盆踊りなんてするのか。

ねえ、とおるさん。

想像するのは、いつもあなたのことばかりです。

とおるさんと一緒に来たいな、と思ったり。

家族でこんなところに行ったりするのか、と思ったり。

不思議と、今は寂しくないよ。

にぎやかに祭りに繰り出すあなたとあなたの家族に会いたいと思えるくらい。

とおるさん。

でも。やっぱり。
会いたいです.....。

あたしが間違ってるの？

全国を出張で飛び回ってるとおるさんへ。

何度、同じお願いをしたか、数えてないからわからないけれど。

ねえ、予定、ちゃんと教えてくれませんか。

直前になってもころころ予定が変更になるから、きちんと決まってから言いたい、っていう、あなたの気持ちはわかるよ。

でもね、そう思ってるうちに、あたしに伝えるのを忘れちゃってるんじゃ、意味ないじゃない？

あなたとの会話から推し量ると、どうやら家族には「明日から出張」の一言で話は済んじゃうみたいだけど。

ねえ、あたしが間違ってるのかな。

あなたがいつ、どこに行くのか知りたい、知っておきたい、っていうのは、変なのかな？

「あなたといつ会えるか」を気にしてるからだと、あなたは思ってるでしょ。
だから、「次に会えるのはいつなのか」をあたしに言っておけば大丈夫だと思ってるでしょ。

そうじゃないんです。

ああ、その理由をあなたに説明できればいいのに。

あのね。

不安なんだ。

こういう言い方、したくないけど。

家族なら。あたしが、違う立場なら。

きっと平気。

「明日から出張」って言われても。「あ、そうなの？」って、さらりと言える。

でも、そうじゃないから。

心は深く結びついていると信じているけれど、現実世界でのつながりは、とても細くてか弱いから。

あなたと連絡が取れることが、あなたとつながっている証（あかし）だから。

.....やっぱり、あたしが間違っているのかな。

だって、あなたの予定を知らなくたって、困ることはないものね。

どうせ、会いたい日をあたしが決められるわけではないのだから。

ねえ、とおるさん。

あたし、間違ってますか。

あたしは重荷ですか.....。

被害妄想

同じ「会いたい」という言葉でも。

あたしとあなたのそれは、何か重みのようなものが違う気がするの。

被害妄想のようなものだと、わかってはいるけれど。

もっと、名前を呼んで。

「さやかちゃん」でも、「さやか」でも、どっちでもいいの。あなたに名前を呼ばれるだけで、あたしはしあわせになれるのに。

ねえ、でも、最近あまり名前を呼んでくれないね。

あなたの口からこぼれる「さやかちゃん」の響きで、あたしはあなたの特別なんだと感じられるのに。

だから、あなたに気づいてほしいから、あたしがあなたの名前をたくさん呼ぶね。

とおるさん、とおるさん、とおるさん。

って。

きっとあなたは、笑って「どうしたの？」って聞くね。

そしたらね、「なーんでもない」ってあたしも笑って、「だいすき」って言ってあなたにぎゅーって抱きつくの。

ひとりの時間に思うこと

蓄積する言葉

言いたいことはたくさんある。

けれど、そのどれもが言ってはいけない言葉のような気がして、いつも飲み込んでしまう。

そして、飲み込んだ言葉はいつまで経っても消化できずあたしの中に蓄積され、発酵していく。

言ってしまっても、いいんだろうか？

言ってしまっても、あの人との関係は壊れないだろうか？

言ってしまっても、あの人はあたしが思うほどには苦しまないのだろうか？

言ってしまっても、あの人は去らないでいてくれるだろうか？

自分の中でいくら問いかけても、答えは出ない。

だからといって、あの人には聞けない。怖くて。

待っているんです。

あなたのことを、ずっとずっと待っているのに。

待っているしかできないなんて。

あの人のおおきさ、あたしの小ささ。

あの方は、とてもおほきな愛であたしを包んでくれているのに。

あたしはなんて小さいんだろう.....。

矛盾

あなたの家族になりたいわけじゃないのに。

気がつくと、あなたの家族と比べている自分がいる。

雪が降った日。

「東京は雪だよー！」

出張中のあなたに、メールを送ろうとして、……やめた。

きっと、あなたの奥さんから、もうとっくにメールが行っているだろうな、って気付いたから。

まさか正直に「かみさんからもメールがきたよ」なんてことは、あなたは言わないだろうけど。でも、もし「知ってる」なんて言われるだけでも、あたしは落ち込んでしまいそうだから。

ひとりのときは。

ひとりのときは、ちょっとだけ自分を甘やかしてあげる。
思いっきり泣くことを自分に許してあげる。

あの人の前で、いつも笑顔でいられるように。

あたしは、ひとり。

一人でいると、あなたは今何をしているだろうと考える。

あたしが一人でいるこの時間。あなたはきっと、一人じゃない。

あなたの子供になりたい、と思った日。

こんなに天気のいい週末には、あなたはどんな一日を過ごしたのだろうと考える。

家族でどこかに出かけたりしたのかな。

いつか職場の仲間と一緒にあなたの家におじゃましたときの、あなたの姿を思い出す。

夫であり、父親であるあなたも、とてもすてきで。

あたしは、ますますあなたのことが好きになったの。

ご家族をととても愛しているのが、あなたのおだやかな表情でわかる。

奥さまがとても幸せなことが、その柔らかい表情でわかる。

お子さんたちもあなたのことが大好きだって、膝の上からお子さんたちが離れないことでわかる

。

お子さんたちに向けるあなたの表情は、あたしには見せたことのないもので。

でも、愛情があふれる笑顔は、あたしに向けてくれる笑顔にちょっと似ていて。

.....その笑顔に向けてくれるなら。

あなたの子供になりたい。

とか、思っちゃったあたしはバカでしょうか（爆）

恋人の顔、夫の顔、父親の顔。

「じゃあね」

そう言って別れた後、あなたの気持ちはいつ切り替わるの？

あたしが視界から消えた瞬間から？

あなたの家がある駅に降り立ったとき？

家に着いたとき？

あなたはいつ恋人の顔から、夫の顔、父親の顔に戻るの？

あたしは、ずっとあなたを愛してあなたを求めたままなのに。

自分への、問いかけ。

つらいこと、せつないこと、悲しいことは、たくさんある。
でもそれ以上に、うれしいこと、しあわせなことが、たくさんあるはず。
だから、ここまでふたりで歩いてこられたのでしょうか？

なのに、なぜ「しあわせ」は当たり前のことのように受け止めてしまうのだろう。
なぜつらいことばかりに目を奪われてしまうのだろう。

しあわせになりたいと、
あなたとしあわせになりたいと、心から願っているはずなのに。

疲れた日には

今日みたいに、遅くまで残業した夜は。
会社を出た開放感の中で、だけど疲れてちょっと心が弱くなっているの。
誰かとちょっと触れ合いたくて、

「やっと終わったよー。疲れたー（泣）」

なんて、あなたにメールを送ってみたいくなる。

だけど、それはできなくて。
そのことで、あたしはまた少し悲しくなってしまう。
贅沢なことを望んでいると、わかってはいるのだけれど。

部屋に戻れば、いつもの時間になれば、インスタントメッセージであなたと会える。
何日か経てば、あなたの腕に抱かれて眠ることができる。

それなのに、これ以上を望むのは、あたしのわがままでしかない。

そう、わかっているのに。

やっぱり、今日みたいな夜は、軽い気持ちであなたにメールを送る自分を想像してしまう……。

あなたの隣で目覚める土曜日の過ごし方

あなたが帰る朝は、絶対に部屋からは見送らない。
今まであなたがいた空間に一人残されるのは耐えられないから。

だから、あなたと一緒に部屋を出て、電車も一緒についていく。

あなたの帰り道の途中には、ショッピングセンターや映画館があるから。
あたしはそこまで一緒に電車で行って、そこから先は、一人の時間。

「ひとりの時間を満喫するのよ」と、一生懸命言い聞かせて。
寂しさからは目をそらして。

糸のイメージ

あなたとのつながりは、あたしの中では「糸の束」のイメージ。

例えば、あなたからメールが来ること。

それは、一本の細い糸がつながったイメージ。

例えば、あなたとインスタントメッセージでつながったこと。

それは、また一本の新しい糸がつながったイメージ。

そんな細い細い糸をたぐり寄せて集めて、少しでも太くしようとするあたし。

けれど、その糸は、時間の経過とともに少しずつ細くなっていく。

だから、どれだけたくさんの糸を集めても、あたしが握りしめているその糸は、いつも、あまりにも細くて頼りなくて。

あたしはその糸が切れてしまう不安から逃れられない。

あたしたちは、そんな頼りないつながりなんだと、思っている。

未来

どこまでも

あなたと一緒に

歩いていけたら

どんなに幸せだろう

あなたのいないところで

あなたのいないところであたしはどれだけの涙をながせばいいのだろう？

あなたに聞いてもらえたら。

つらいからといって、あなたにメールを送ることもできない。

聞いてほしいことが、あなたにしか話せないことが、たくさんあるのに.....。

もっと。

もっと言葉がほしい。

もっと「かたち」のある何かがほしい。

そんなことを思うのはわがままですか。

あなたの気持ちが変わった？　と思うような「何か」があったわけじゃないのに、あなたが隣にいる時間以外は安心できないのはどうして？　以前の方が、あなたの気持ちを感じられたような気がしてしまうのはなぜ？

あたしの中で何が変わってしまったのだろう……。

期待してしまっていること。

もしかしたら今日会えるかもしれない。

ちょっと帰りがけに顔を見るだけでも。

どんなに可能性が低くてもそのチャンスを掴まえない、逃したくない。

そう思って、つい電話を待ってしまうあたしを、あなたは知らないんだよね。

.....と、思っていたけれど。

もしかしたら、そんなこと、あなたはお見通しなのかもしれない。

と思ったりもする。

ねえ、会いたいよ.....。

決心。

一人の時間の過ごし方を覚えなといけない。

ときどき思うことがある。

もう、潮時なのかもしれない。

ふっと、そんな気持ちになることがある。

なんの根拠もなく。

なんの脈絡もなく。

三十一文字

寒い夜

シングルベッドは広すぎて

あなたのぬくもりの名残を探す

あなたの心が知りたい。

ときどき.....あなたがすごく脳天気に見える。

あたしのことで苦しんだりすることって、あるの？

ただ、

あなたと一緒にいたい。

覚悟

あなたとの時間を失いたくない。

それなら、あなたとの関係をこのまま続けていくしかない。

だけど、あたしにはまだその覚悟が決まらない。

この先、何年一緒にいられる？

二年？ 三年？ 五年？ 十年？

あたしが三十歳になっても一緒にいられる？ 四十歳になっても？

あなたが定年を迎えたら？

ずっと先、何年後か、きっと今と同じようには会えなくなる日が来る。

そのときになって、あたしは後悔しないだろうか？

あなたは思うのだろうか？

桜の季節に思うこと

どこに行っても。

あなたと一緒に来たかった、と思う。

何を見ても。

あなたと一緒に見られたらいいのに、と思う。

期待。

あさってまで待ってね、と言われたのに、それでも「今日」を期待してしまう自分がいや。

今日は、ひとり。

あなたのいないベッド

あなたのいない部屋

あなたのいない空間はこんなにも空虚だ

だって会いたいんだもん。

ぽっかり時間が空いた。

「ねえねえ、会いたいな。今から行ってもいい？」

なんて、言ってみたいもんだ。

って、思ったりしない？ するよね。ね。ね？

(.....って、誰に言ってる？)

禁止事項

「さみしい」と言うことすら許されない。

涙の効用

一人で映画を見に行った。

何でもないシーンなのに急に涙が出てきた。

空いていて誰にも見られる心配がないのをいいことに、流れるままにしておいた。

ここ数日のできごとが、思ったよりもあたしの心にはきついみたいだ……。

だけど。

映画館を出て、自分の心がずいぶん軽くなっているのに気がついた。

ほんの数分のことなのに、涙の効用ってすごい。

泣くことって、ときどき、もしかしたらすごく大事だ。

憧れ

朝、「おはよう」とメールを送る。

夜、「おやすみなさい」とメールを送る。

休みの日にはときどき「今、なにしてる？」なんてメールを送る。

そんなことに憧れる。

前向きなのか後ろ向きなのか。

今のこの状態を、

「安定」と捉えるのは、プラス思考のあたし。でもそれを「前向き」と言えるのか。

「停滞」と考えるのは、マイナス思考のあたし。でもそう思うのは本当に「後ろ向き」なのか。

記念日に

「何がほしい？」と聞かれれば

あなたと作る未来がほしい

週末。

あなたのいない時間を何で埋めよう。

映画を見ようか。

本を読もうか。

あなたのいない寂しさは、何で埋めることができるだろう。

無題

あたしは

優しくなんかない

臆病なだけ

一人で過ごす週末。

一人で過ごす週末は嫌い。

いやなことばかり考えてしまうから。

あなたと話せない夜。

パソコンが壊れた。

毎晩続けていたインスタントメッセージでの会話もできなくて、さぞかし寂しくなるだろう.....と思っていたが、意外とそうでもなかった。

もしかしたら、インスタントメッセージでオンラインになっているときよりも落ち着いているかもしれない。

最近、インスタントメッセージでのやり取りが、前よりもさらにゆっくりになった。彼からの言葉が届くまでの時間が、前よりも長くなったからだ。

彼がネットにつなぐ時間も遅くなった。だから前ほどたくさん話せない。

きっと仕事が忙しいのだろう、仕事をしながらなのだろう、と思うことにしている。けど違う答えが返ってくるのが怖いので理由は聞かない。（彼のほうから、「明日までの資料を作ってて」とか言ってくれることはあるけれど）

いっそのこと、「今日は忙しいからごめんね」と切ってくれればいいのに、と思ったりする。

待たせても大丈夫、と思っている彼を責めるつもりはない。待つことなんて、平気だ。そんなことで壊れる関係じゃない。

むしろ、待たせても大丈夫とってくれているのなら、それはあたしを信用してくれているということだ。それはうれしいこと。

.....ただ、あたしが勝手に傷ついているだけだ。

「あたしと仕事とどっちが大事なの？」なんて馬鹿なことは言わない。そんなものではない、そういうことではないことくらい、わかってる。知ってる。

ただ、ほかに「あたしがいちばんじゃない」ことがあるから、そこに引きずられているだけだ。

きっと、あとしばらくは、平和な夜。

都合のいい女

都合のいい女になるしかない。

でも都合のいいだけの女にはなりたくない。

せめてものプライド。

言葉

言葉なんて、いくらでも繕えるものだと知っているのに。

言葉なんてなくても、あなたの気持ちはちゃんと伝わっているのに。

それでも言葉がほしいときがあるのはどうしてだろう。

そんなあたしの気持ち、わかってもらえますか.....。

囚われる

いまさら、あたしを縛りつけてはいけないなんて思うのですか。
もう、しっかりとあなたに囚われているのに。

いっそのこと、もっとがんじがらめにしてくれたらいいのに。
そうしたら、何もかもをあなたのせいにして責められるのに。

.....あたしは、あなたを責めたいと思っている何かがあるのだろうか。
もう、それすらもわからない。

心境の変化

憑き物が落ちた。

そんな感じ。

何かある度に必要以上に傷つかなくなった。

何かある度に泣きわめきそうに苦しくなったりしなくなった。

何かをあきらめたのか。

何かを捨ててしまったのか。

それとも、何かを理解したのか。

自分の感情なのに、突然こうなったのがなぜなのかわからない。

あの人への想いは変わっていないと思うのだけれど。

感情の起伏の、振れ幅が前より小さくなった感じ。

いい方への振れ幅が小さいのはあまりよろしくないような気もするけれど、トータルで見れば安定している今の状態の方が、きっといいのだろう。

本心じゃないけど。

あなたになんかなびかない。

と言えたらいいのに。

とってしまうことがある。

忙しい時期は過ぎたはずなのに前のようなペースでは会えずにいる。

そのことに対して、あの人は特に説明をしない。説明をしないことで、あたしは少し不安になる

。

タイミングの悪いことに、そんなときにメッセージャーまで調子が悪くてまともに話せない日が続く。

不安だけが募る日々。

あの人とあたしをつなぐ細い糸の束がぶちぶちとちぎれていっているような気がする。

あの人は自然消滅を狙っているんじゃないか。

そんなことまで考えてしまう。

そんな姑息な手段を取るような人じゃないとわかっているのに。

(そんな男だったらあたしの方から切ってやる)

けれど、インスタントメッセージャーのかわりにいっぱい送ってくれるメールは、相変わらずとても優しくて。

あたしの不安はただの杞憂だ。

何を疑心暗鬼になっているんだろう。

こういうときは、あたしが弱気になっているときだ。

自分に自信がないから不安になる。

疑ったりしてごめんなさい。

歪んでる。

あなたを失うつらさを思えば耐えられる。

.....歪んでる。

名前を呼んで

あなたはあたしのことを「さやかちゃん」と「ちゃん」付けで呼ぶ。

あたしはあなたのことを「とおるさん」と「さん」付けで呼ぶ。

それが一番自然だと思う程度に、あたしたちの歳は離れている。

そこに、年齢差ではない距離を感じてしまったのはいつのことだったろう。

呼び捨てにすることは、ときには親密さを増すこととイコールなんじゃないかと思っちゃったんだ。

あたしが頼めばきっと、あなたは「ちゃん」を付けずにあたしの名前を呼んでくれるよね。

けれど、きっと「さやか」と呼ばれたその瞬間、あたしはきっと悲しくなる。

あなたとの距離は、呼び方を変えたって何をしたってこれ以上縮めようがないのだから。

つれづれ

二番目

あなたの家族には、なりたくない。
二番目にしかなれないのなら。

いつまでも恋人でいたい。
あなたの「二つ目の家族」になんか、なりたくない。

違いはなんですか

遠くから毎日会社へ通っているとおるさん。
交通の便のいい場所で一人暮らしをしているあたし。

例えば、早朝から現場に入るとき。
例えば、早い便の飛行機で出張に行くとき。

遠くのあなたの自宅から、がんばって早起きして始発に乗って出かけていくときと。
「悪いんだけど泊めてもらえる？」と言って、あたしの部屋へ来るときと。

その違いはなんなのかな。
どんな事情があるんだろう。
どんな都合があるんだろう。

わがままな心。

もしも。

「帰れなくなったから泊めて」

あなたがそういう人だったら。

「あたしはホテルじゃないわよ！」

と怒るのに。

どんなに遅くなっても必ず帰る、帰らなきゃいけない、と思うと。

「泊まっていけば？」

って言いたくても言えない、と思うと。

今度は寂しくなってしまう。

わがままな、私のところ。

たからもの

お互いをいたわり合うように、いとおしむように、優しく深くおだやかに愛しあった夜。ベッドに入って、すぐに眠りに落ちてしまったあなたの寝顔は、なんだか少しつらそうで。あなたのために何もできないどころか、あたし自身が少し落ち着きをなくしてしまっていて、あなたの負担になってしまっていることがとても申し訳なくて。少しだけ泣いて、それからあなたにしがみついてあたしも眠った。

けれど。

次の日の夕方、仕事帰りにあなたがくれたメールには、思いもかけない言葉。

昨夜はありがとう。

眠いけど、精神的にはすごく癒された感じ。

ありがとう。愛してる。

とおるさん。

こちらこそ、こんなすてきな言葉をありがとう。

あたしの方こそ、あなたのその言葉で、どれだけ救われることか.....。

このメールは、あたしにとって、とてもとても大切なたからものになった。

あの日のあなたの言葉。

「あなたのことを幸せにはしてあげられないけど」
そう言ったことを、あなたは覚えているだろうか。

言われたその瞬間よりも。
今の方が、その言葉が重く響く。

それは.....きっと、あたしの想いがそのときより強くなってしまったから。

インスタントメッセージ

あたしたちのインスタントメッセージでの会話は、テンポがとてもゆっくり。

考えながら時間をかけて文章を打つことも多いし。

あなたが仕事をしながらだったりすることもある。

そして、あなたからの返事に時間がかかることが多いのは、きっとまだ家族が起きているのかもね。もちろん、あなたはそんなこと何も言わないけれど。

.....ときどき、いやになる。

インスタントメッセージが嫌いになりそう。

インスタントメッセージで話しているときでさえ、あたしにはあの人を独り占めすることはできないんだ。

寝ぐせ。

寝ぐせでさえも愛おしい。

あなたの笑顔。

あなたの笑顔が、あたしにとっての、一番の精神安定剤。

今日は、逢いたかったんだ。話を聞いてほしかったんだ。

仕事が早く終わった帰り道。

あなたに相談したいことがあったので。

「今日、遅くなる？」と、携帯にメールを送ってみる。

しばらく待ってみるけれど、返事は来ない。

気付かないのか忙しいのか。

あきらめて、本屋とドラッグストアをのぞいて帰る。

部屋に帰り着いて、少しして。

携帯が鳴る。

ディスプレイには、あなたの番号。

ごめん、全然気づかなかった。

今日、午後から外出で、そのまま帰ってきちゃったんだ。

今、着いたところ。

さやかちゃんにメールを送ろうとして、気がついた。

ごめん。

笑おうとする。

なんでもないよ、と。

だけど、それはうまくいかない。

電話でよかった。

泣き笑いの顔なんて、見せられない。

ううん、気にしないでね。

久しぶりに早く終わったから。

もしかしたらお茶できるかな、って思っただけだから。

ちゃんとしゃべれたかな。

声、震えたりしなかったかな。

ちゃんと笑えたかな。

逢えないのに、あなたを不安にさせるわけにはいかないから。

.....でもね。

本当は、今日はとても逢いたかったんだ。

あなたに、どうしても聞いてほしいことがあったんだ。

電話を切ってから。

少しだけ、泣いた。

いつもと違う言葉。

珍しいね。

「今日、いい？」

じゃなくて、

「今日、行きます」

なんて。

気遣い。

一泊旅行を計画中。

あちこちホームページを見ながら、インスタントメッセージで相談。

日程を決めて。行く場所を決めて。ホテルを決めて。周辺の観光スポットをチェックして……。

楽しいな。

楽しいね。

楽しみだな。

とっても楽しみだね！

すると、突然。

「ごめん、ちょっと切ります」

と言って、あなたがインスタントメッセージを切ってしまう。

家族、かな……？

前にもそういうことがあった。

息子さんが起きてきた、とか。

十分くらいで、あなたがインスタントメッセージに戻ってくる。

「ごめんね」

理由を言わない、やさしいあなた。

「どうしたのか、聞いてもいい？」

つい聞いてしまう、だめなあたし。

「ゴールデンウィークの計画を練ってて、」

(奥さんが)

「ちょっと見に来た」

聞けばちゃんと答えてくれる、やさしすぎるあなた。

……聞かなきゃよかった。

つまり。

家族との旅行の計画と、あたしとの旅行の計画と、同時に考えてたわけですか……？

それは……ひどいです。

あたしに、じゃなくて。家族に対して。

だめだよ、そんなことしちゃ。

あたしが、言えることではないけれど。

あたしが言うのは、偽善でしかないけれど。

でも。

ねえ、それはだめだよ、とおるさん。

家族のことと、あたしのは、ちゃんと境界を引いて。

想いの強さと心の弱さ

あなたと一緒に過ごす時間は。

少なくとも、その時間は、あなたの気持ちが百パーセントあたしに向いてくれるから。
くつろぐあなたに寄り添い、あなたに抱かれ、「愛してる」と囁かれ、あたしは癒される。

けれど。

今のあたしは、とても不安定で。

ひとりの時間を乗り越えることができないでいる。

ほんの小さなことで、あたしは傷つく。

メールでの何気ない一言だったり。

インスタントメッセージで話題をかわされてしまったことだったり。

悪気のない、無意識のあなたの行動に、あたしは傷ついてしまう。

あなたへの想いは、際限なく深く、強くなっていて。

それに比例して、あたしの心は弱く、わがままになっていく。

言葉

あなたからもらっていちばんうれしい言葉はなんだろう？

「愛してる」？

「癒される」？

あたしは、あなたにとってのどういう存在でありたいんだろう。

見せてしまった弱さ

「重くならないようにしようね」
お互いに、そう言っていたはずだったのに。



以前は。

部屋で抱き合いながら。あるいは、会社で二人きりになれたときに。あるいは、カフェでコーヒーを飲みながら。

「今週はもう無理そうだなあ」とか。
「次は木曜日かな、うまくいけば」とか。
ある程度の予定を教えてくれていた。もちろん、確実な予定なんて一度もなかったけれど。

それが。いつから？ そう……会社の組織変更があった頃から？
前もって予定を教えてくれることがなくなった。
突然、「今日、いい？」と携帯にメールが来るようになった。

それまでは、同じフロアで仕事をしていた。毎日顔を合わせて、二人きりで話せるチャンスもいっぱいあって、目配せと短い言葉で会社帰りのカフェの約束ができた。

それができなくなった頃から、彼は予定を言わなくなった。

組織変更と時期が重なったこととは、もしかしたら何も関係ないのかもしれないけれど。
時期が重なったことで、あたしはその変化に対応できなかった。

会社の組織変更に伴って、あたしは、やりがいのあったプロジェクトを失った。その大きい挫折感で、あたしの心はかなり不安定だった。

毎日毎日、「今日、いい？」というメールを待ちわびるようになってしまった。
朝まで一緒にいた日でさえも、「もしかしたら」という思いが消えなかった。
そんなことはあり得ないとわかっているのに、連絡がないと落ち込んでいた。
携帯を手放せなくなった。

そして……その思いを彼にぶつけてしまった。見せてしまった。

もともと、人と騒ぐよりも一人でいる方が好きなので、仕事が終わってから予定が入ることなんてほとんどない。だから、彼が前もって予定を言おうと言うまいと、あたしの生活が変わることはないはずだったのに。

ある日、あたしは彼を責めてしまう。

「ねえ。どうして最近は当日になってメールくれるの？ どうして前みたいに予定を言ってくれないの？」

「確実な約束ができないから混乱させたら悪いかなと思って。行こうと思ってた日にほかの予定が入ってたら悪いし」

「当日急に言われる方が大変でしょ？ あのね、今、あたし毎日すごく緊張して待っちゃってるの。もし食事とか誘われても、『もしかしたら今日連絡があるかもしれない』って思って断っちゃいそうなくらい」

今なら、わかる。

そんな風に待ちかまえられることは、決して嬉しいことではないはず、と。

そんなの、重たいだけだ。

けれど、彼は優しかった。

「ご、ごめん。まさかさやかちゃんがそんな風に思ってるなんて思わなくて……。ごめんね。じゃ、今度からちゃんと言うよ。でも、確実なことは言えないのは、わかってね」

あたしのことを責めるどころか、本当に申し訳なさそうな顔をして。

そんな彼の表情を見て、あたしは言ってしまったことを後悔をする。

ごめんなさい。

ごめんなさい。

重くならないって約束破ってごめんなさい。

けれどあたしはそこでぼろぼろ泣いてしまって、もうしゃべることができなくなってしまった。ただ、バカみたいに何度もうなずいて。

そんなあたしを、彼は優しく抱きしめてくれる。
頭をなでながら、何度も「ごめんね」と言う。
今度はあたしは頭を横に振る。

とおるさんが謝ることないよ。
悪いのはあたしなんだから。

本当はそう言いたかったのに、やっぱり大泣きしているせいで何も言えなかった。

彼はこのときのことをちゃんと覚えていてくれて、それ以来、必ず予定を言ってくれるようになった。

そのたびに、あたしはまた申し訳なく思う。



「重くならないようにしようね」
お互いに、そう言っていたはずだったのに。

あたしだけが重くなってしまってあなたにぶつけてしまったあたしの弱さ。
これは、いくつかあったそんなできごとの、ひとつ。

もっともっと、強くなりたい。
いつもあたしを優しく包んでくれる彼のように。

つらい.....

あなたを恨みたくない。

あなたを嫌いになりたくない。

あなたにいちばんわかってほしいのに。

あなたにいちばん理解してほしいのに。

誰よりもあなたにそばにいてほしいのに。

どうやら今日は、インスタントメッセージであなたを独り占めできたみたい。

あたしたちのインスタントメッセージでの会話は、いつもとてもゆっくり。

じっくり言葉を選んでいることが多いから。

あなたが仕事中的ことが多いから。

だけど。

仕事の合間にインスタントメッセージならかまわないけれど。

ゲームの合間にインスタントメッセージは、少し悲しい。

「あたしと〇〇とどっちが大事なのよ！」なんてことを言う女にはなりたくないと思っているのに。



それは、昨日のできごと。

昨日、あなたはネットで見つけたという、フリーソフトのパズルゲームを教えてくれた。

あたしは、ダウンロードして、あなたに感想を伝えるためにちょっとだけ遊んで、だけどすぐにゲームをやめた。

うん、面白いゲームだったよ。ルールは単純だけど、ついつい何回もチャレンジしたくなるような。

でも、ゲームはいつでもできるけれど、あなたとだって毎晩インスタントメッセージで会えるけれど、それでも今この瞬間、あなたとインスタントメッセージでつながっていることはあたしにとって大事なことで。

だから、あたしはすぐにゲームはやめて、いつも通りネットをさまよいながら、あなたとの会話を続けたのだけど。

昨日は、あなたからの言葉が届くまでに、とてもとても時間がかかって。

仕事中的のかな？ と思っていたのだけど。

「やっと〇〇ステージクリアした！ 〇〇〇ですごい手間取った（泣）」

そんなあなたの言葉が届いた。

「なんだ、ゲームしてたの？」

くらいは、言ったと思うけれど。どこまで感情を伝えたか、もう忘れてしまった。

あたしはとても動転していた。

自分との会話よりパズルゲームを取ったことが寂しかった。

「あたしよりゲームが大事なわけ？」と、一瞬考えてしまった自分に腹が立った。



どうやら今日は、あなたをインスタントメッセージで独り占めできたみたい。

インスタントメッセージという仕組みが、またちょっと嫌いになった日。

あなたのわがまま、あたしのわがまま。

「今日、いい？」というメールが遅かったのは、あなたのせい。
そのメールに気づかなかったのは、あたしのせい。
うまくやれば断れたはずの飲み会を断れなかったのは、あたしのせい。
飲み会を途中で切り上げさせるのは、あなたのわがまま。
「自分が悔しくなっちゃうから」という、あなたのわがまま。
あなたもわがままする言があるのだと知った。

だったら、あたしも少しはわがままする言ってもいいのだろうか？

あなたの言葉は「わがまま」なの？

あたしは、こんなに自分を殺さなくてもいいの？

油断すると

油断すると。

何もかもを、「既婚者につきあっているせい」にしてしまいそうになる。

ほしいもの

キスよりも
言葉がほしい
夜がある

言葉より
ぬくもりがほしい
夜もある

三十一文字

いつの日か 終わりを迎える恋だから
今の幸せ 大事にしたい

今日に限って残業なんて。

あなたが部屋で待っているのに。

今日に限ってこんなに遅くなるなんて。

あなたのところに飛んでいきたいのに、

あなたが一人で待っていると思うとせつなくて泣きそうになるのに。

あなたの家族のことも、もっともっと知りたいけれど。

あなたの家族のこと 知りたくないわけじゃない

だけど

あなた以外の人の中から あなたの奥さんのことを聞くのは

とてもとても いや

電話

出張先から、あなたは必ず電話をくれる。

だけど。

せっかく声を聞けても、ほんの少ししか話ができなかったら、かえって寂しいよ……。

あなたの想いを感じるとき

そう。「愛してる」という言葉がなくても。

例えば。

「必ず、って約束はできない」と言いつつ、毎晩必ずインスタントメッセージにログインしてくれること。

出張続きなのに、その合間を縫って逢いに来てくれること。

出張に行くと、どんなに遅くホテルに戻ってもメールをくれること。

ホテルで迎える朝は、きちんと一人で起きられる人なのに、モーニングコールをねだること。

うまく時間が合うときには、帰る時間が遅くなるのにお茶を飲む時間を作ってくれること。

電車の中で、さりげなく手を握ってくれること。

メールがまずいときは、「返事しないで」じゃなくて、あたしを気遣って「返事はいいよ」と言ってくれること。

.....言葉なんかなくても。

こんなに、あなたの愛があふれてる。

ありがとう。

愛してる。

「お帰りなさい」って言えない。

いつも、とおるさんはあたしの部屋に入るとき、

「おじゃまします」

と言う。

そしてあたしは、

「お疲れさまでした」

と言ってとおるさんを迎え入れる。

ある日のこと。

「ただいま」

そう言ったとおるさんに、あたしは「お帰りなさい」と言うことができなかった。

いつも通りに「お疲れさまでした」としか言えなかった。

「ただいま」という言葉を聞いたとき、あたしの顔にはどんな表情が浮かんだだろう？

ごめんね、とおるさん。

だって。

「ちがう！」って思ってしまった。

ここはあなたにとって「帰る」場所ではないでしょう？

あなたが帰る場所はほかにあるのに。あなたはそこにちゃんと帰っていくのに。

なのにあたしに「ただいま」と言うのは、残酷だ。

そう、思ってしまったから。「お帰りなさい」って言えなかった。

「お疲れさまでした」とあたしが言ったとき、とおるさんの表情は何も変わらなかったけれど。きっと、あたしの思いは伝わってしまった。

そのとき以来、とおるさんが「ただいま」って言うことはなかった。



最近は出張が増えて。

出張の帰りに会いに来てくれることがあって。

そういうとき、とおるさんは「ただいま」と言う。

あたしも、そのときは「出張から」という意味を込めて、「お帰りなさい」と言える。

けれど。

出張のときじゃなければ、やっぱりあたしは、「お帰りなさい」って言えない。

電話

「まだ会社」

「そっか……じゃ、また電話する」

次に電話が鳴るまでの何分か、あの空白はなんだったのかな。

「やっぱり今日、いい？」

ってことは、ほかの日にしようか、迷ってたってことなのかな。

優先させたのは、あなたの気持ち？ それとも家の都合？ ……なんて思ってしまう、あたしの中のひねくれた心。

ごめんね。

どんな理由だっていいの。いつだっていいの。

会えるのなら、いつだってうれしいんだから。

あなたと会えた帰り道。

ときどき、ちょっとだけのデートをする。

仕事帰りにあなたとカフェで待ち合わせて。

あなたの乗る電車の時間に合わせて、三十分とか一時間とか、他愛もないおしゃべりをして。

カフェから駅までの短い距離はいつもしっかり手をつないで。

一緒に歩けるのは改札口まで。

ホームに向かう階段で振り向いて小さく手を振ってくれるあなたを見送って。

そして、あたしはたいてい寄り道して帰る。

雑貨屋さんを覗いたり。

本屋さんで立ち読みしたり。

別れ際に、あなたに「早く帰るんだよ」って言われているのに。

だって。

あなたの姿が見えなくなった瞬間から、もう、ちょっとだけ寂しくなってしまうんだもの。

そのまま家まで寂しい気持ちを持って帰るのはいやで。

だから。あなたと会えた帰り道は、あたしはいつも、寄り道して帰る。

夏休み終わり間近の風景

夏休み最後の日曜日。

インスタントメッセージで、珍しくあなたが自分から今日何をしていたかを話し始めた。

「今日はずっと子供の工作だった」

お子さんの、夏休みの工作をやっている、という話は前にも聞いていた。

あたしの子供の頃は、夏休みの自由研究や工作は、全部自分でやるものだったけれど。時代が変わったらしく、今は「親と子供が一緒に取り組む」もの、なのだそうで。設計を考えたり、組み立ても手伝ったり、と大変らしい。

工作の話を知ると、あたしの心が少し、ささくれる。

自分が、子供の時に親に手伝ってもらったことがないから、「親に手伝ってもらえる」ことがうらやましいのかと思っていたのだけれど。どうやら違うみたい。

醜い。あたしは、お子さんに嫉妬している。

「なかなかかっこよくできてるんだよー」

あたしの思いなんて知るわけもなく、あなたは話を続ける。

手先が器用でセンスもいいあなたのことだから、きっと、すてきなものができそうですね。そう思うと、見たい気もするけれど。

その一方で、見たくないと思う自分もいる。

あなたと、あなたのお子さんの共同作業の結果なんて。
あなたと家族の作品なんて！

見たい。見たくない。

けれども勝ったのは好奇心。さんざん迷ったけど、インスタントメッセージで送った。

「見たい！」

好奇心が勝つうちは、まだ健全といえる？
なんて……甘いか。

あの日の思い出。

あなたが初めて「愛してる」と言ってくれた日のことを覚えてる。

今思い出すあなたの表情は、何か重い決意をしたような目で、そしてなぜか少し苦しそうで。

きっと、あなたは、その言葉を、想いを告げていいのかどうか、たくさん悩んでくれたんだよね。

ありがとう。

あの日から、あたしはそれまでよりずっとずっと幸せになれた。

願い

とてもとても、尊敬している人がいます。

とてもとても、好きな人がいます。

その人に釣り合う強さを持ちたい。

Q & A

あの人の家族になりたい？

イエ

あの人の家族と同じ扱いをしてほしい？

イエ

あの人の家族よりも大事にしてほしい？

イエ

あの人に愛されたい？

ハイ

いつもいつも、自分のことを考えてほしい？

イエ

疑問。

結婚ってなに？

恋愛ってなに？

夫って、妻ってなに？ 夫婦ってなに？

家族ってなに？

お茶のお誘い

同じフロアで仕事をしていた頃。目配せで約束ができた頃。

あたしばっかりお茶に誘ってたような気がしてた。

でも、今思えば、あなたから誘ってくれる方が多かったかもしれない。

組織変更で会社の中では顔を合わせられなくなってからは。

電話をしてまでお茶に誘ってくれるようなこともなくて。

一時期は、「わざわざ電話してまで会いたいとまでは思っていないんだ……」と落ち込んだりしていたのだけれど。

そのうち、気づいたんだ。

ときどき、会社を早く出られたときに。

「上がります。また夜に。」（インスタントメッセージで話そうね、という意味）

と、携帯にメールをくれる。

それは、小さなサインなんだ。「会いたい」っていう。

「あたしももう上がります」ってメールを返すと、必ず「じゃ、少しお茶でもいいかが？」って誘ってくれる。

そうやって、あたしに負担にならないように、すごく控えめなサインで、あたしを求めてくれるんだね。

……あまりに控えめで、鈍感なあたしはなかなか気づかないです、とおるさん……。

できること、できないこと。

携帯電話で、気軽に話せたり、メールをやりとりしている人もいる。
けれど、あたしたちは、それはできない。

あたしたちは、会える日は、必ず二人で眠りにつける。
けれど、絶対に泊まらずに帰っていく人もいる。

毎日、顔を合わせることができる人もいる。
けれど、あたしたちは、ときには一週間会えないことがある。

あたしたちは、毎日のようにインスタントメッセージで話すことができる。
けれど、家では自由にネットにつなげない人もいる。

そういうことなのだ。

それぞれの事情があって、できることできないことがあって。

このせつない恋愛では、すべてを手に入れることなど、きっと、誰もできない。

心境の変化

こんなはずじゃなかった。

「重くならないようにしようね」って、お互いに言っていたのに。

あたしだけが、ひとりで落ちて。

あなたにもぶつけて。

こんなはずじゃなかった。

けど、本当は、いつか自分がこうなること、わかったた。

予想よりも早く、重く、つらかったけれど。

幸せだと思える時間

あなたが隣にいる時間。

あなたと二人きりでいられる時間。

それは、とても幸せな時間。

だけど。

あなたという時間しか、あなたがいることの幸せを感じられなくなってしまったら。

あたしは、もしかしたらとても不幸なのかもしれない。

こころとからだ

からだを求められること。

あたしへの想いがあるからあたしを求めてくれるんだ、と思う。

だから、あなたに抱かれながら、あなたとの絆が深まる気がするし、あなたへの想いが強まるし、あなたの想いがあたしに注ぎ込まれていると感じられる。

だけど。

なぜかときどき、あなたが快感だけのためにあたしのからだを求めてくるんじゃないかと思ってしまうことがある。

きっとそれは、あたしは自分に自信がなくなっているときか、理由もなく寂しくなっているとき。

大丈夫、あなたのことを信じているよ。

そんな風を感じてしまうのは、あたしの気のせいだってわかっているから。

だから。

そんなことを考えてしまう自分のことが、ときどきとてもいやになる。

目立っちゃいけない

仕事が終わってからあなたと外で待ち合わせ。

あなたを見つけたあたしは、うれしくて走っていった。
あなたもあたしを見つけて、にこにこ笑っていたけど。

あなたのところにたどり着いたときの第一声は
「走っちゃだめだよ、目立っちゃうでしょ」
だった。

うれしくて舞い上がっていたあたしは、その一言で、しゅん、となってしまう。

せっかく、久し振りにお茶を飲みながらゆっくり話せるはずだったのに、あたしはちょっと落ち込んだままで。
きっとあなたも楽しくなかったよね。

帰り道、携帯に「ごめんね」とメールを送った。

少しして、あなたから返事。

「走ってきてくれてありがとう。ほんとは抱きしめたいくらいうれしかった」

最初から、そう言ってくれていたら……。

あなたに迷惑をかけてしまったんだと思っていたの。
喜んでくれていないのかと思って悲しかったの。

でもやっぱりうれしくて、またあたしは舞い上がってしまったのだけど。

とおるさん、気遣いが足りなくてごめんね。
これからは気を付けるから。
だから、今度会ったときも、笑ってね。

一目惚れ、だったんだ、きっと。

あなたと初めて会った日のことを覚えている。
そのとき交わした会話も覚えている。

あの日から。
会話を交わすたびに。
誰もいない廊下でにっこり笑って手を振ってくれるたびに。

あたしは、あなたに恋していった。
坂を転げ落ちるように、あっという間に。
あの頃のあたしは、そのことに気づいていなかったけれど。

.....ううん、ほんとはきっと、初めて会ったあの日、もうあたしは恋に落ちた。
きっとね、一目惚れだったよ。

.....あの頃のあたしは、そのことに気づいていなかったけれど。

すれ違い

「仕事が終わる時間がうまく合ったらお茶しようか」

そう言っていたのに。

お互いに外出先から移動しながらだったから、携帯メールが届かなくてすれ違ってしまった。

結局、ちょっとだけ顔を見ることはできたけれど、そのまま今日はお別れ。

すれ違ってしまったことよりも。

「ごめんね、お茶する時間がなくなっちゃった」と言われたことの方がせつなかった。

制約のある関係なんだと、改めて思い知らされる。

アタシノ ナカデ ダレカガ 「タスケテ」 ト サケンデル

ダレ ガ タスケヲ モトメテイルノ？

ダレ ニ タスケヲ モトメテイルノ？

手をつなごう。

好きな人と手をつないで歩くなんて、とても簡単なことだと思ってた。

願い。

あなたに貫かれながら

「おれのものだと言って」と囁いたら
あなたはその願いを叶えてくれるだろうか

やっぱり、「お帰りなさい」って言えない。

あたしの部屋に来たときに、一度だけ、とおるさんが「ただいま」と言ったことがあった。それなのに、あたしは「お帰りなさい」と言えなかった。

それからずっと、とおるさんが「ただいま」と言うことはなくて、また「おじゃまします」に戻っていた。

けれど。

出張の合間に、久し振りに部屋にやってきたとおるさん。

あのときのことを忘れてしまったのか、それともそれほど気にしていないのか……。

あなたの口から出た言葉は、

「ただいま」

だった。

……今日も、あたしは顔色を変えたのだろうか。わからない。

ごめんなさい、とおるさん。

あたし、やっぱり、「お帰りなさい」って言えない。

「ただいま」

「お疲れさまでした」

ちぐはぐなやりとりの後も、とおるさんの態度は変わらない。

いつも通り、とてもやさしくて。

いつも通り、激しく求めて。

そんなあなたのやさしさや激しさが、少し、あたしをせつなくさせる。

不安

あたしだけが必死なの？

あなたはいつも落ち着いていて余裕たっぷりに見えて、それがさらにあたしを焦らせる。

のらねこ

ぼくはのらねこ。

あの人ですか？

ご主人さまかって？

ちがいますよ。

いえ、とてもかわいがってもらっていますよ。ときどき、ごほうびだってくれます。

え？ あの人のこと、きれいなのかって？ まさか！

だいすきです。とってもやさしいんですよ。

あの人にかわいがってもらえて、ぼくはとってもうれしいです。

あの人にかわいがってもらうと、ぼくはとてもしあわせになります。

あの人、ぼくが甘えるとよろこんでくれます。

あの人、ぼくがよろこぶと、ぼくもしあわせ。

.....でも、気まぐれを当てにするわけにはいかないでしょう？

あの人のごほうびがなくても、ぼくは生きていけますから。

あの人がいなくなっても、ぼくは生きていかなきゃいけませんから。

あ、そんな心配そうな顔をしないでください。

今、ぼくは、とてもしあわせなんですよ。

ぼくは大丈夫です。

ちゃんと、ここで、生きていきますから。

ぼくは、のらねこ。

野良猫になりきれない

朝、あたしより早く部屋を出て会社に向かうあなたと、玄関で今日最後のキス。

「今日はまっすぐ帰るので」

というあなたの言葉に、あたしは笑って

「うん」

と言うけれど。

心の奥に何かが刺さる。

.....こんなことで。

今、彼は仕事が忙しいし、それでなくても毎日毎日会えるわけないことくらい、わかっているのに。

「今日は会えない」と言われたただけなのに、なぜか「捨てられた」と感じる。

何度も、拾われて。何度も、捨てられて。

野良猫になりきれない、あたしの弱さ。

ぼくは、のらねこ。

ぼくは、のらねこ。

今日は、あの人がまたぼくのところにきてくれました。

おみやげをもらったんだ、って言って、おいしいものをたくさん持ってきてくれたんだ。

ぼくもあの人も大好きなものだったから、一緒に食べたんだ。

とってもおいしくて、ぼくはとっても幸せだったよ。

でもね。

すごく、たくさんなんだ。

あの人は笑って

「あとはいきみのものだよ。たくさん食べていいからね」

と言って帰ってしまったけれど。

ねえ、とても食べきれないよ。

ぼくは、たくさんのおいしいものの前で、一人で途方に暮れてしまったんだ。

だって。

これ、ほんとはぼくのじゃないよ。

もらったおみやげだって、言ってたもん。

ぼくのところに來ることにしたから、ぼくへのおみやげにしちゃっただけで。

うれしいけど、なんだか悲しいよ。

これ、ほんとはぼくのじゃない。

食べきれないよ……。

でも、ぼくは、のらねこ。

どんなことがあったって、自分で解決しなきゃいけないんだ。

あなたには言えないけど。

あなたが屈託なく家のこと、家族のことを話してくれるのはうれしいけれど、ちょっとだけ心が痛い。

わかってるけど

「やっぱり人目が気になる」

何気なく、けれどきっぱりと言われてしまった。

わかってはいるけど、今更ながら傷ついた。

人目が気になるような恋愛なんて、

ココナッツの香り

買い置きの石けんを探していたら、ずっと前に友達がプレゼントしてくれたボディソープが出てきた。ココナッツの甘い香りのボディソープ。

彼との時間を過ごすようになってから、彼の希望で無香料の石けんを使うようになっていたので、しまい込んだまますっかり忘れてしまっていた。

今日、初めて使ってみた。

体が疲れたときに甘いものを食べたくるように、心が疲れているときは甘い香りが欲しくなるのかもしれない。

お風呂上がりにも続く甘い残り香がなんだかとても心地いい。

心を軽くしたいときに、大事に使うことにしよう。

でも、これはやっぱり彼が来る日には使えないな。

それに.....気をつけよう。

使い方を間違えると、この甘い香りとつらい思い出が結びついてしまいそう.....。

謝らないで。

あなたが部屋に来ることになっていた日。

急に奥さまの具合が悪くなった。

あたしの部屋に向かっていたあなたは、奥さまから連絡をもらって、引き返した。

携帯のメールで、何度も「ごめん」と謝りながら。

会えなくなったことより、そうやって何度も謝られることの方が、つらかった。

それでもなんとか耐えていたのに、夜、落ち着いてからあなたがくれたメールの

「行くことになっていたのに約束を破ってごめん」

という言葉がきっかけで、ぼろぼろ泣いてしまった。

もう深夜と言っていい時間になってから、やっとインスタントメッセージで少し話すことができた。

幸い、奥さまの体調は落ち着いたとのこと。

そのことに対しては、本心から

「よかった。あたしも安心しました」

と言えたのだけれど。

そのあとも、あなたはずっと謝り続けていて。

止まっていた涙がまた溢れた。

「仕方ないもの。謝らないで」

あたしの言葉を、あなたは本当に素直に受け止めて

「（気を遣ってくれて）ありがとう」

と言ったけれど。

責めることができないから「仕方ない」、謝られるとつらいから「謝らないで」と言っているんだということには、気づいてくれないね。気づかれないように言っているのだけど。

会いたいときに自由に会うことができないのがあたしたちには普通のことなのだから、だから、お願いだから「会えなくなったこと」を謝らないで。

自分を憐れんでしまうから。

不倫の恋のせつなさとしあわせ。

<http://p.booklog.jp/book/86650>

著者：中原さやか

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nkhrrsyk/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/86650>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/86650>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ